News Release

2026 年 11 月 5 日
一般社団法人ビジネス機械・情報システム産業協会

「業界共同による再生プラスチック材の開発」が 令和 8 年度資源循環技術・システム表彰 プラスチック新技術賞を受賞

一般社団法人 ビジネス機械・情報システム産業協会（東京都港区、会長 本間利夫、以下、JBMIA という）が推進する「業界共同による再生プラスチック材の開発」が、一般社団法人産業環境管理協会が主催する「令和 8 年度 資源循環技術・システム表彰（第 52 回）」において、『プラスチック新技術賞』を受賞いたしました。

2026 年 10 月 21 日（水）、機械振興会館（東京都港区）にて表彰式が執り行われ、同日午後に開催された「3R 先進事例発表会」におきましても、本取り組みに関する成果発表を行いました。

1.「資源循環技術・システム表彰」について

「資源循環技術・システム表彰」は、一般社団法人産業環境管理協会（後援：経済産業省）が昭和 50（1975）年より実施している歴史ある表彰制度です。廃棄物の発生抑制（リデュース）、使用済み物品の再使用（リユース）、再生資源の有効利用（リサイクル）等に係る先進的な技術や社会システム、製品開発等を表彰し、持続可能な循環型社会（サーキュラーエコノミー）の形成に貢献することを目的としています。

- **主催：** 一般社団法人産業環境管理協会（https://www.cjc.or.jp/）

2. 取り組みの概要

複合機・プリンター業界各社および樹脂コンパウンドメーカーと連携し、業界共通で利用できるポリスチレン（PS）再生プラスチックを開発・事業化するとともに、供給から品質保証まで一元化した循環スキームを構築いたしました。

個社単位のリサイクルでは難しかった「安定供給・高品質・経済合理性」を同時に達成した点が評価され、『プラスチック新技術賞』を受賞いたしました。

【主な評価ポイント】

- **個社単位から「業界横断の取り組み」への発展**

従来は各メーカーが個別（個社単位）に行っていたリサイクルを、業界全体で連携する仕組みへ発展させた点

が評価されました。

- **「ハイブリッド PCR」による供給量の確保と高いリサイクル率の両立**

安定調達できる「家電 4 品目由来」のポリスチレン（PS）再生プラスチックと回収量が限られる「OA 機器由来」の再生プラスチックを融合させる「ハイブリット PCR」を開発し、ポストコンシューマーリサイクル（PCR）率 90wt%という高度な環境性能とバージン材同等の品質スペックを達成した点が評価されました。

- **仕様の共通化による「水平リサイクルの実現と事業化」**

事務機器において排出量が多く、かつ物性要件の共通化が容易な「ポリスチレン（PS）」に対象を限定し、色も汎用色（グレーおよびブラック）に絞ることで、仕様のばらつきを抑えた点が評価されました。実証実験にとどまらず、実際の製品搭載まで結び付けた先進的かつ実用的な取り組みとして評価されました。

3. 表彰式・事例発表会の当日の様子



受賞する当協会専務理事　林祥一郎（左）



右から林専務、岩間（PMR-TF サブリーダー）、加科（事務局）

4. 今後の展望

本取り組みでは、業界の枠を超えた連携により「ハイブリッド PCR」の新たな循環モデルを確立し、実際の製品実装までつなげることができました。今後は、本プロジェクトで確立した「素材単位の自律的循環モデル」をベースに、ポリスチレン（PS）材だけでなく ABS、PP、PE など他素材への横展開を検討し、本モデルをさらに発展させることで持続可能な社会の実現に貢献してまいります。

本件に関するお問い合わせ先：
一般社団法人ビジネス機械・情報システム産業協会
TEL：03-6809-5010（代表）　FAX：03-3451-1770
資源循環委員会 事務局　 菊地　教行、加科　淳